

今月の推薦句

山田真砂年

早梅の蕾む喃語のごときもの

大坪正美

遠吠えや粉振るやうに真夜の雪

小見戸 実

初夢や恥かしながら持てて持てて

上田信隆

すめらぎのまづ一首より歌かるた

沼田布美

片耳は地震のニュースや寒の雷

飛田小馬々

殷・周の続きが現世堂冷ゆる

張本弘子

得仁堂

愛はよく分ならず今日も毛糸編む

中村かりん

江ノ電の窓に小春の海がある

中村晃也

剪定の進みし程に大胆に

林 恵美子

大地まだ静かでありし初昔

関口敦子

春近し八百屋が道にせり出して

滝代文平

鶯の鳴くとき人は立ち止まる

久保千恵子

墳形のゆるやかにして枯木山

池田角之助

鬼やらひ園長の息荒々し

高田 峰

手づくねの茶碗両手に小春かな

深野 怜

乾きたる潤目鱗の眼の抜けて

田村チカ

喰積やきのふと違ふ顔をして

瀧本 萌

鏡餅隣に写真立ての父

堀 潤子

银杏降る見知らぬ町のやう歩く

戸上品子

縄文の土偶の笑みや桜餅

今井 基